

四半期流動性カバレッジ比率報告書（LCR：Liquidity Coverage Ratio）



銀行名：Bank JTrust Indonesia, Tbk
報告期間：2026年第2四半期（4月～6月）

（単位：IDR Mio）

項番	構成項目	報告基準日：26年6月30日		報告基準日：26年3月31日	
		債務およびコミットメントの残高／契約上の手形金額	評価減（ヘアカット）後の高品質流動性資産（HQLA）額、負債およびコミットメントの残高に流出率を乗じた額、または契約上の手形金額に流入率を乗じた額	債務およびコミットメントの残高／契約上の手形金額	評価減（ヘアカット）後の高品質流動性資産（HQLA）額、負債およびコミットメントの残高に流出率を乗じた額、または契約上の手形金額に流入率を乗じた額
1	LCR計算に使用されたデータポイント数		59日		59日
高品質流動性資産（HQLA）					
2	高品質流動性資産合計（HOLA）		7,036,370		7,120,484
資金流出（CASH OUTFLOW）					
3	個人顧客預金および中小企業（Micro and Small Business）顧客からの資金調達の内訳：				
	a. 安定預金／資金調達	917,935	45,897	873,446	43,672
	b. 不安定預金／資金調達	4,465,757	446,576	4,310,765	431,077
4	法人顧客からの資金調達の内訳：				
	a. 決済用預金	2,955,021	147,751	4,303,408	215,170
	b. 非決済用預金および／またはその他の非決済用負債	11,366,282	4,546,513	11,625,099	4,650,040
	c. 銀行発行債の形態による有価証券（無担保債）	-	-	-	-
5	有担保資金調達		-		-
6	その他の資金流出（追加所要額）、内訳：				
	a. デリバティブ取引に係る資金流出	802,735	802,735	424,781	424,781
	b. 流動性要件の強化に起因する資金流出	-	-	-	-
	c. 資金調達の喪失に係る資金流出	-	-	-	-
	d. 貸出枠および流動性枠のコミットメントの引出しに係る資金流出	-	-	-	-
	e. 資金の配分に関するその他の契約上の債務に係る資金流出	-	-	-	-
7	その他の資金調達の偶発負債に係る資金流出		-		-
8	その他の契約上の資金流出	364,890	364,890	71,122	71,122
	資金流出合計		6,354,361		5,835,862
資金流入（CASH INFLOW）					
9	有担保貸出		-		-
10	正常なカウンターパーティからの手形（正常債権からの資金流入）		323,898		327,431
11	その他の資金流入		1,232,144		670,235
	資金流入合計	-	1,556,042	-	997,666
			調整後合計額		調整後合計額
	HQLA合計		7,036,370		7,120,484
	純資金流出合計		4,798,319		4,838,195
	LCR（％）		146.64%		147.17%

個別分析

Jトラスト銀行インドネシアの2026年第2四半期（2026年4月～6月）における平均流動性カバレッジ比率（LCR）は146.64%であり、規制当局が定める最低LCR基準である100%を上回っております。これは、レベル1の高品質流動性資産（HQLA）の構成が、資金流出時における流動性の要件を十分に満たしていることを示しています。

2026年第2四半期のLCR報告書における、LCRの数値および数値に関する定性的な情報額は、以下の通りです。

1 LCRの数値に関する主な変動要因および全般的な傾向

- 2026年第2四半期（2026年4月～6月）の平均LCRは146.64%となり、2026年第1四半期（2026年1月～3月）の比率（LCR）である147.17%と比較して0.53%低下（↓）しました。
- LCRの低下は、平均純資金流出額が398.8億ルピア（↓0.82%）減少したものの、平均HQLAが841.1億ルピア（↓1.18%）減少したことによるものです。
- 全般的に、LCRの算出において、当行の流動性プロファイルに関連し影響を及ぼす項目のうち、LCR開示様式に網羅されていない「その他の資金流入」および「資金流出」の構成項目は存在しません。

2 高品質流動性資産（HQLA）の構成

レベル1の高品質流動性資産（HQLA）の平均構成比は98.70%であり、現金、インドネシア中央銀行（BI）預け金、およびインドネシア政府発行証券で構成されています。一方、レベル2のHQLAの平均構成比については、レベル2Aが0.00%、レベル2Bが1.30%となっており、HOLAの要件を満たす事業会社発行の債務証券で構成されています。

3 資金調達源の集中度

Jトラスト銀行インドネシアの資金調達源は現在十分な水準にあり、非決済用の法人からの資金調達が主体となっています。さらに当行は、商業銀行におけるLCR充足義務の規定で定められた基準に従い、資金調達構成のさらなる改善、とりわけ安定的かつ／または決済用の資金調達源の拡充に常に努めております。流動性の管理に当たり、当行は適切な管理方針、手順、および基準を整備しており、これらは流動性に関連する当行のすべての部門に周知徹底されています。

4 デリバティブ・エクスポージャーおよび潜在的な追加担保請求

- 全般的に、LCRの推移に対するデリバティブ・エクスポージャーの影響は相対的に軽微です。これは、現在のところ、デリバティブ取引の種類がプレーン・バニオ型のデリバティブに限定されているためです。
- 全般的に流動性ニーズの増加は生じておりませんが、当行は、追加担保請求の要因となり得る格下げや、特定の取引における原資産価値の下落がもたらす影響を注視することにより、こうした可能性を常にモニタリングしております。

5 LCRにおける通貨ミスマッチ

当行は米ドル（USD）の形で重要な外貨エクスポージャーを有していますが、重要な外貨建ての加重平均資金流出額は、インドネシアルピア（IDR）と比較して相対的に小規模です。こうした状況を踏まえ、満期プロファイルの水準、キャッシュフローの予測、および市場における資金調達アクセスの深度を考慮に入れた、重要な外貨建て負債に対する流動性管理戦略を講じています。

6 流動性管理

Jトラスト銀行インドネシアは、銀行の特性に応じ、かつ適用される規制法令に則って、流動性リスク管理体制、内部流動性報告、流動性リスク戦略の伝達、ならびに流動性緊急時計画を含む、質の高いリスク管理を適切に実施しております。主な内容は以下の通りです。

- 流動性リスク管理の一環として、当行は、銀行の流動性管理に責任を持ち、かつ高品質流動性資産（以下、HQLA）を売却・現金化する権限を有する専門部署によって、HQLAの管理が確実に遂行される体制をとっています。さらに、業務上の要件を満たすため、当行は、中央銀行の法定準備金の充足度に影響を与えることなく（日中当座貸越（日中流動性供給））を利用できる適格性を中央銀行において有しているかを確認した上で、レベル1およびレベル2AのHQLAを分類しています。また、レベル2のHQLAに関しては、金融資産の種類、発行体、および特定の通貨の種類についての分散要件を設けています。

- 加えて、Jトラスト銀行インドネシアは、ファンダメンタルズ、市場特性、業務面、ならびに分散要件におけるHQLA要件の充足、および情報システム（特にLCR構成項目の算定に関連するもの）の妥当性を確認するため、定期的な見直しを引き続き実施しています。
- 流動性リスク管理戦略の伝達、特にLCRの管理に関する事項については、監査役会、取締役会、流動性リスク管理部門、および関連部署の各レベルに対し、定期的に実施されています。

* 流動性カバレッジ比率（LCR）負債算定レポートの定量的および定性的分析は、従来の商業銀行レポートの透明性および公表に関するSEOJK（OJK回答状）第29/SEOJK.03/2025号のガイドラインに基づいて作成されています。